

1 開 会 校長挨拶

出席 (学 校) 中川校長、瀧澤副校長、三條教頭(全日)、武藤教頭(定時)、管野事務長
(評議員) 春田淳一、黒元浩志、太田隆久、岡田理恵、前野史賀 <敬称略>

2 内 容

(1) 校長挨拶

(2) 後期の報道記事について 全日制：三條教頭、定時制：武藤教頭

(3) 今年度の自己評価の結果及び改善策の説明 全日制：瀧澤副校長、定時制：武藤教頭

(4) 今年度の学校関係者評価及び意見交換

【全日制】

- 春田評議員：いじめについての取組は理解できた。いじめがあるとしたら、どんな可能性が考えられるか。
(回 答)：本校では、今年度いじめはなかったが、北海道の高校では、いじめからの不登校も発生している。全道・全国では、SNS関連のいじめが報告されている。スマートフォン等の指導も必要である。
- 春田評議員：国際交流活動の推進についてはどうなっているか。
(回 答)：今年度は、滝川市のベトナムカンボジアツアーがなくなったが、代わりにシンガポールへ行った。校内では、国際交流部とクッキング部が中心になり、日常的に食文化の国際交流を実施している。次年度は、スペインの高校生が本校を訪問することになっている。
- 太田評議員：スマートフォンが普及しており、情報機器を用いたいじめはあると思う。もし、いじめを見つけたら、大きくならないように早期に摘み取ってほしい。
- 岡田評議員：「オープンスクール」や「体験入学会」の参加人数は例年とそれほど変化がないようであるが、来年の時期はどうなっているか。文武両道と聞いているが、説明内容にもう少し部活動等のPRを増やしたらどうか。
(回 答)：ほぼ同じ時期を考えているが、中学校の行事も考慮したい。今年度は部活動も大きな成果をあげているので、しっかりPRしていきたい。
- 岡田評議員：SSHの2期目はいつからいつまでか。
(回 答)：平成30年度から平成34年度の5年間だが、指定の審査が非常に厳しくなっている。SSHが受験にマイナスになっていないことについて、教職員の理解を図りたい。
- 前野評議員：思考力や表現力は社会では大切である。SSHは社会で通用する人間づくりとして良い取組だと思う。受験にしぶりたいという職員アンケートの意見が気になるが、SSHを大切にしてほしい。
(回 答)：SSHの全プログラムを経験している理数科の生徒からは、高い評価を得ている。教職員の理解を促したい。
- 岡田評議員：英語のポスターセッションは、場数を踏むことも大切である。将来役に立つと思う。
(回 答)：滝川市が小・中学校において生徒の発表活動に力を入れている。生徒達の発表に対するレディネスが育っているのではないかと思う。
- 黒元評議員：SSHの評価が2.5と低くなっているが、SSH事業は職員から理解されていないのか。仕事が増えるから教員の評価が低くなっているのではないのか。発表やチームで仕事をすることを高校時代に経験しておくことは、社会に出て役に立つ。生徒のいろいろな能力を鍛えることは大切である。
(回 答)：SSH業務への慣れや仕事の多忙さなどから、一部の教員のみでやってしまうことがあったので、内容がよく理解されていない部分があったのではないかと思う。評議員の皆さんの意見を職員に伝えていきたい。

【定時制】

- 黒元評議員：生徒募集を頑張っているようだが。
(回 答)：全力で取り組んでいる。
 - 岡田評議員：今年度、生徒の事故がなかったということであるが、あるとしたらどんな事故が考えられるか。
(回 答)：SNSを用いた個人攻撃や仲間はずれなどが考えられる。
 - 岡田評議員：特別支援教育のパートナーティーチャーは、学校に来てもらうのが大変だと聞いているが。
(回 答)：申請が通れば、年3回可能であり、今年度は3回来てもらった。特別申請もある。
 - 岡田評議員：ホームページを頑張っていると思う。
(回 答)：今後も継続したい。
- (5) 閉 会 校長挨拶